

民研

いま語り合おう、公教育の未来

すべての子ども・若者に学ぶ喜びと生きる希望を

第33回 全国教育研究交流集会

1日目

ラウンドテーブル 会場・オンライン併用
10時～12時 奈良教育大附属小問題

全体会

会場・オンライン併用
13:00～17:00

講演 平丸久美子(篠原久美子)さん
(ピースセルプロジェクト「絵本と演劇で紛争を止める」)
「絵本と演劇で紛争を止める」と言うための学びの後ろ



シンポジウム

子どもの居場所づくりから「公教育」を考える

コーディネーター 富田充保さん(相模女子大)

シンポジスト

山中 梓さん (よこはまユース)
三井昌樹さん (スコーレ・ムーンライト)
仲田康一さん (法政大学)

交流会 18:00～ 全国教育文化会館

2024年

12月21日 土
22日 日

1日目の全体会は、
全国教育文化会館
オンラインの併用
2日目は原則オンライン

申し込み

*参加無料 希望者は
12月18日までに下記フォームへ

<https://forms.gle/aFP7EKRxfGYgfTEUA>
メール(office@min-ken.org)の場合は、氏名・フリガナ・メールアドレス・所属と
全体会の参加方式、希望
する分科会名を記入して
下さい。前日までに案内と
資料を送ります。



主催

民主教育研究所

東京都千代田区二番町 12-1

全国教育文化会館 6F

Tel 03-3261-1931

Fax 03-3261-1933

office@min-ken.org

<https://www.min-ken.org>



2日目

分科会 原則オンライン
10:00～16:00

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 子ども・若者とともに
今を変える | 5. 地域と学校 |
| 2. 地域社会と高校教育
の課題 | 6. ジェンダー平等と教育 |
| 3. 特別支援教育 | 7. 環境と地域教育 |
| 4. 教育課程 | 8. せんせいの未来をひらく |
| | 9. 憲法と平和教育 |

開催形態について

全体会はハイブリッドです。分科会は完全オンライン開催です。

参加費は無料

分科会の概要

- 第1分科会 子ども・若者とともに今を変える
- 第2分科会 地域社会と高校教育の課題
- 第3分科会 特別支援教育
- 第4分科会 教育課程
- 第5分科会 地域と学校
- 第6分科会 ジェンダー平等と教育
- 第7分科会 環境と地域教育
- 第8分科会 せんせいの未来をひらく
- 第9分科会 憲法と平和教育

分科会	世話人	趣旨と討論の柱	レポート
第1分科会 子ども・若者と ともに今を 変える	馬場久志 (日本薬科大学)	貧困と格差による困難の中にいる人々ほど自己責任が強いられる社会において、子ども・若者も大人たちも生きることを余儀なくされています。排除されることにおびやかされる日々の中で、問題と言われるさまざまな様相が見られたり、また社会から気づかれない孤立が生まれたりしています。しかしこれらは子ども・若者たちのSOSに他なりません。本分科会では、子ども・若者を取り巻くさまざまな困難の実態とそれらの背景について検討し、理解を深めたいと思います。そして、そうした中で子ども・若者たちが声を上げ、つながり合うところに巻き返しの可能性と希望があることを、共有したいと思います。	①「現代社会の危機と子ども・若者—子ども・若者の新しい可能性をどうしたら現実のものにできるかを考えよう—」(前島康男/元東京電機大学) ②「私たちの生理と向き合う。～with 生理革命委員会～」(山領珊南さん/生理革命委員会) ③「高校での居場所カフェづくり」(清水 功/大阪府高等学校)

第2分科会	地域社会と高校教育の課題	<p>阿部英之助 (大東文化大学)</p> <p>福井庸子 (大東文化大学)</p>	<p>地域社会と高校教育の課題</p> <p>～高校教育の今からみる地域と教育～</p> <p>少子化に歯止めがかからない中、各地域ではさらなる学校統廃合や学科再編が進み、地域社会に様々な影響が出ています。各地で進行している高校再編が教育現場に与えている影響を語ってもらう中で、地域の特性を踏まえた教育のあり方について議論を深めていきます。個々の現場の声を集め、共に考え、解決策を模索する場とします。</p>	<p>趣旨説明 (本分科会のねらい)</p> <p>①大阪府の専門高校の再編と地域社会との関り (谷口行弘/大阪府高教)</p> <p>②茨城県の高校教育の現状と課題 (國井啓介/茨城高)</p> <p>③富山県の高校再編と地域社会への影響 (堀内大地/富山高教組)</p>
第3分科会	特別支援教育	<p>河合隆平 (東京都立大学)</p>	<p>テーマ 後期中等教育・青年期教育を考える</p> <p>昨年に続き、障害のある生徒の後期中等教育・青年期教育をテーマに設定した。昨年は、特別支援学校高等部における軽度知的障害のある生徒の実践レポートをもとに討議したが、高校通級指導や通信制高校の実態に即して議論を深めたい。</p>	<p>①公立通信制高校における生徒の学び (土岐剛史/北海道有朋高等学校)</p> <p>②高校通級の自立活動 (諏訪淑子/兵庫県立特別支援学校)</p>
第4分科会	教育課程	<p>金馬国晴 (横浜国立大学)</p> <p>中村清二 (大東文化大学)</p>	<p>テーマ「学びの経験から教育課程を捉え直す」</p> <p>まず、大きく動き出している次期学習指導要領改訂に関する有識者検討会の論点整理(9/18)にも言及し、趣旨説明をします。続いて、「公教育」が問い直される危機的状況のなかで、もとめられている学校(教育課程)の姿および教育実践の自由な創造の意義について報告します。以上を踏まえ、授業をまさに創造的に展開してきた、滝口正樹(東京都中学社会、および大学非常勤)、鈴木博美(私立高校家庭科)両名の実践について本人から報告します。その創造的授業づくりについては民研の教育課程研究委員会で討議を重ね、来年度の民研年報で特集する予定ですが、今回は社会人や大学生となった元生徒達へのインタビュー記録や、本人に直接参加いただいたの発言から、〈学びの経験としてのカリキュラム〉に迫る試みとします。</p>	<p>趣旨説明(学習指導要領改訂へ、その拘束性、有識者検討会の論点整理を含めて)</p> <p>①教育DX時代における学校と教師の課題(仲田康一/法政大)</p> <p>②滝口実践と鈴木実践の概要一戦後教育史から(滝口正樹/大学非常勤・元東京中学/鈴木博美/正則高校)</p> <p>③滝口中学社会科実践を受けてから今まで(元生徒の社会人)</p> <p>④鈴木家庭科実践の元生徒グループインタビューから(関英夫/元私立中高校)</p> <p>総括討論(元生徒からの発言を含む)</p>

第5分科会	地域と学校	<p>石山雄貴 (鳥取大学)</p> <p>山本由美 (和光大学)</p>	<p>全国で、公共施設再編といった経済政策に後押しされた学校統廃合が増加しています。学校統廃合と施設「複合化」「民営化」の問題点と各地の取り組み、対抗軸となる地域の共同、子どもの意見表明権の可能性について考えます。</p> <p>また、高校生による地域を創造する学びと、地域に根差した「学校づくり」に取り組む事例についても検討します。</p>	<p>①「学校統廃合と公共施設」「複合化」「民営化」の動向と対抗軸の可能性 山本由美(和光大学)</p> <p>② 地域を創造する学びと学校づくり 兵庫県立村岡高校、徳島県立城西高校神山校の事例をもとに 石山雄貴(鳥取大学)</p> <p>③長野県飯田市の中学校区「学園」構想と小中一貫教育の問題点 関靖(飯田下伊那地域づくりと教育のあり方を考える会)</p> <p>④統廃合計画白紙撤回、小中一貫校構想に対する市民の運動 望月克治(長野県茅野市市議)</p> <p>⑤東京町田市の学校統廃合計画に対する5万人署名の運動 高柳真希子(学校をなくさないで！プロジェクト町田)</p>
第6分科会	ジェンダー平等と教育	<p>杉田真衣 (東京都立大学)</p>	<p>日本は依然としてジェンダー平等にはほど遠く、女性の雇用・生活状況の悪化やDV被害の相談の増加等、コロナ禍が女性の困難を可視化したことは記憶に新しいです。それでもそのことに怒りを感じた女性たちが、様々な形で声を上げ始めてはいます。一方で近年、とりわけ男性たちの間で、「女尊男卑」「逆差別」といった言葉を用いるなどして、ジェンダー平等にむけた動きに抵抗感や嫌悪感を示す様子が見られます。その背景も含め、男性をめぐっていまどのような課題があり、学校教育に何ができるのか。3人の報告から考えあいます。</p>	<p>①新自由主義社会における「男性問題」(池谷壽夫/元・了徳寺大学)</p> <p>②「エリート男子校」でおしゃべりから始める男性性研究—「謎の経営者目線」から「自己受容」まで— (田中めぐみ/私立中学・高校)</p> <p>③「デートについていろいろ考えよう」—高校社会科での性を学ぶ授業の試み (溝部宏文/公立高校)</p>

第7分科会	環境と地域教育	<p>安藤聡彦 (埼玉大学)</p>	<p>原子力基本法改正(2023年)を契機として、核開発の推進に拍車がかけてられています。それは、原発立地地域を中心として、学校教育にも大きな影響を及ぼしつつあります。当委員会では、2011年の福島原発事故以来、青森県下北半島に通い、調査を重ねてきました。このたび、その成果を『核開発地域に生きる；下北半島からの問いかけ』(安藤聡彦・西舘崇・川尻剛士編、同時代社)を刊行することになりました。 https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784886839787</p> <p>本分科会では、この本をめぐって、執筆者、コメンテーター、そして参加者の皆さんとで語り合いを行い、「下北半島からの問いかけ」を深めていきたいと考えています。</p>	<p>① 本書刊行の経緯と意図(安藤聡彦/「環境と地域」教育研究委員会委員長)</p> <p>② 執筆者からの各章内容紹介</p> <p>③ コメント 寺田肇(青森県国民教育研究所長) 前田晶子(東海大学教授) 村上正子(原子力市民委員会事務局長) その他(打診中)</p> <p>④ 意見交換</p> <p>※本書の一般書店での発売予定日は12月20日です。事前にお読みになりたい方には、1冊2300円(税・送料込み)でお届けします。安藤(vyg01436@nifty.com)までお名前と送付先を明記のうえ、12月11日までにご連絡ください。12月16日にはお届けできるよう準備する予定です。代金は同封の振替用紙を用いてご送金ください。</p>
第8分科会	せんせいの未来をひらく	<p>原北祥悟 (崇城大学)</p> <p>糀谷陽子 (子ども全国センター)</p>	<p>8月末に出された中教審答申『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」は、「このままでは学校が持たない」という教職員の叫びに全くこたえないどころか、「新たな職」と「新たな級」をすべりこませるなど、学校職場の困難を一層厳しいものにしてしまうものではないかと批判が集中しています。この答申の問題点を明らかにして、これから始まる具体化にどのように対抗していくのか、そして「せんせいの未来をひらく」ために本当に必要なことは何か。みんなですっかり議論し、展望をつかみたいと思います。</p>	<p>午前 「中教審答申の批判と今後のたたかいの展望」(仮) (宮下直樹/全日本教職員組合委員長)</p> <p>午後 「せんせいの未来をひらく」ために～それぞれの立場から中教審答申を批判し、今後のとりくみに向け、徹底討論～</p> <p>①「若手研究者から見た中教審答申」(大沼春子/北海道大学・院生)</p> <p>②「学校現場はどう受けとめているか」(大谷和平/東京・中学校教員)</p> <p>③「過労死をなくすために」(工藤祥子/神奈川過労死等を考える家族の会)</p>
第9分科会	憲法と平和教育	<p>中嶋哲彦 (名古屋大学名誉教授)</p> <p>波岡知朗 (全日本教職員組合)</p>	<p>憲法の原理や理念を絵画で表現することで憲法や平和を考える高校での教育実践、2022年5月に結成された東京学生平和ゼミナールの取り組み、そして今年10月の衆院選挙の結果を踏まえつつ日本国憲法をめぐる現状分析と今後の展望について、多面的に考え話し合える場にしたいと思います。本分科会は今回から、発足したての「憲法と平和教育」プロジェクトが企画運営します。</p>	<p>①「憲法の視覚化を通しての学びと表現 ～韓国の高校生たちに伝える～」(江田伸男/秩父ユネスコ)</p> <p>②「東京学生平和ゼミの取り組み」(島海太佑/東京学生平和ゼミ)</p> <p>③「日本国憲法で戦後80年をどう迎えるか(仮)」(丹羽徹/龍谷大学)</p>

※世話人は民主教育研究所運営委員

●最寄駅

JR四谷駅下車徒歩7分
JR市ヶ谷駅下車徒歩7分
地下鉄有楽町線麹町駅下車2分
地下鉄都営新宿線市ヶ谷駅下車徒歩7分

全国教育文化会館
エデュカス東京

千代田区二番町12-1
電話 03-5210-3511
Fax 03-5210-3512



・全体会・分科会申し込みはホームページからできます。また、メールにて office@min-ken.org 申し込まれる方はお名前、フリガナ、メールアドレス、所属、電話番号、全体会の参加方式（会場又はオンライン）、希望分科会名を記して送信してください。

・世話人・報告者の方も申し込みを必ず行って下さい。申し込みは 12月 18日（水）厳守です。

・参加申し込み者にはEmail で、全体会と9つの分科会の zoomURL を前日までにお送りします。

・複数の分科会に参加することができます。分科会は 12月 22日（日）10時から 16時 です。全体会・分科会終了後に全体会・分科会の感想を office@min-ken.org にお寄せ下さい。